

鹿教湯病院に LSVT-BIG 目的に  
入院中もしくは過去に入院された患者様またはご家族の方へ  
当院における臨床研究にご協力をお願いいたします。

2024 年 8 月 21 日

「パーキンソン病患者におけるピークフローメータを用いた最大咳嗽力測定の実現性と最小可検変化量」に関する臨床研究を実施しています。

鹿教湯病院研究委員会の承認を受け、病院長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	2024003
研究課題名	パーキンソン病患者におけるピークフローメータを用いた最大咳嗽力測定の再現性と最小可検変化量
所属(診療科等)	リハビリテーション部 理学療法科
研究責任者(職名)	須江 慶太(理学療法士)
研究実施期間	鹿教湯病院研究委員会による許可日～2029年6月30日
研究の意義、目的	せき込む力(咳嗽力)は誤嚥の予防のために重要ですが、パーキンソン病を患う方は発症早期から咳嗽力が低下することが報告されています。そのため咳嗽力の検査は重要といえます。咳嗽力の検査はピークフローメータという簡易機器を用いて測定可能ですが、パーキンソン病の方の測定値が安定して計測可能かについては明らかではありません。また通常検査の測定値には誤差が含まれますが、リハビリなどにより咳嗽力が向上した場合、どの程度の改善の変化が誤差の範囲を脱したか(つまり、真の変化が生じたか)については明らかではありません。本研究では日常診療でピークフローメータにより検査している咳嗽力が安定して計測できているかについて検討します。またどの程度の測定値の変化が真の変化を示すかを検討します。
対象となる方	2018年1月1日から2029年6月30日の期間にパーキンソン病を有し LSVT-BIG 目的で当院へ入院し加療を受けられた方もしくは受けられる方
利用する診療記録	年齢、性別、身長、体重、パーキンソン病の重症度(Hoen-Yhar 分類、改訂統一パーキンソンスケール)、罹患からの期間、ならびに LSVT BIG 前後で実施している呼吸機能検査である最大咳嗽力(CPF)の診療記録
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集し、LSVT-BIG 前後で実施している呼吸機能検査の数値が安定して計測できているかの一致度の検討を行います。また可能であれば年齢や重症度により検査の一致度がことなるかを検討します。

共同研究機関名	本研究は、鹿教湯病院のみで実施されます。
問い合わせ先	氏名(所属・職名):須江慶太 (リハビリテーション部・理学療法士) 電話:0268-44-2111

**既存の検体や診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査の必要はありません。**

**当院外へ患者様を直接特定できる個人情報ができることはありません。**

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。データは研究終了後5年間保存後に削除いたします。

**この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。**

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。